令和元年度第２回陸前高田市総合教育会議　議事録

１　日　時　　令和元年１１月２６日（火曜日）
　　午後１時３０分　開会
　　午後２時１８分　閉会
２　場　所　　市役所４号棟　第４会議室
３　出席者　　戸羽市長、大久保教育長、佐々木教育委員、伊藤教育委員、遠藤教育委員、
　　木下教育委員
４　事務局　　細谷教育次長、千葉学校教育課長、小野寺管理課長補佐、
　　齋藤学校教育課長補佐、菅原主事

○管理課長補佐
　ただ今から、令和元年度第２回陸前高田市総合教育会議を開会いたします。
　はじめに、戸羽市長からご挨拶をいただきます。

○市長
　皆様ご苦労さまでございます。お忙しい中ご出席を賜りまして本当にありがとうございます。今日の会議ですけれども、教育大綱の見直しということが大きな議題となっております。これまでも教育大綱については、皆さんのご意見を頂きながら取り組んできておりますが、今回、陸前高田市の第９次教育振興基本計画ということで、それに合わせた形にしたいということのようでございます。子供たちの教育現場の話、あるいは課題もたくさんあるというふうに思います。今この間、１１地区を市政懇談会で回らせていただいたのですが、それぞれの地域にそれぞれの課題がありますし、また、空き校舎の話も結構ありまして、それの利活用の話が出たりしているわけですが、いずれ、まずは子供たちの事を中心に考えていきたいと思っていますし、あわせて教育大綱というのは陸前高田市の子供たちを中心とした、教育の大方針だと思っておりますので、そこはしっかりと皆さんからご意見を頂き良いものに仕上げつつ、それをベースに現場でしっかりと子供たちを育てていただければと思います。
　いずれ、教育委員の皆様方、私より詳しい方ばかりでありますので、是非忌たんのないご意見をいただいて、良いものを作っていただければと思っております。どうぞ、よろしくお願いします。

○管理課長補佐
　次に、大久保教育長からご挨拶をお願いいたします。

○教育長
　改めまして皆さんこんにちは。本日、本当にお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。今回、第２回目ということでの開催になりましたが、先ほど市長からお話がありましたとおり、新しく第９次陸前高田市教育振興基本計画が策定されたことから、現行の

教育大綱を見直すというところでの、今回議案とさせていただいたところでございます。本日、見直しの案をご提案いたしますので、是非よろしく審議をお願いいたします。

私事ですが、若干お話をさせていただきたいのですが、ようやく１か月半を過ぎまして、なかなか学校の現場に行くことができなくて学校の様子が分からなかったのですが、この１か月半の中で学習発表会、それから文化祭等に出かけることができました。１９日はすごい雨降りで、台風の影響があってすごい雨音が体育館の屋根に当たって大変だったのですが、子供たちはそれにも負けずに一生懸命大きな声で、体全体で表現するといったところが見られて大変良かったと思います。それから、新しい学校では本当に雨音が感じない、全然影響がないくらい良い体育館だとお褒めを頂きまして、新しい校舎のすばらしさがより分かったような気がしました。

もう１つは読書感想文コンクールですとか、感謝の言葉エッセイの表彰式がありました。これも各子供たちが取り組んできたものですけれども、この作品を発表するという子供たちがいまして、自分の書いた作品を本当に堂々と気持ちを込めて朗読ができていて、大変すばらしい発表だと感じてきました。

子供たち、震災から８年たっておりますけれども、本当に育っているなという感じを受けています。ただ、今後ともまだこれからの子供たちを育てるという意味では、この間全国Ｂ＆Ｇ教育長会議というものがありまして、その中の講演で国会議事堂のある麹町中学校の工藤校長先生という方が講演されたのですが、宿題は廃止とか、定期テストをやめるとか、あとは担任制度をやめるとか、そういう話がありました。これだけ話すとセンセーショナルですが、基になる考えがしっかりあっての事なんです。やはり、子供たちに付ける力というのはこれからの社会で生きる力を付けなければいけない。そのためには１つは自律の精神といいますか自分で律する精神、人と関わりを持つ力、この２つが大きいということ。宿題をやめるのも勉強をするなというのではなくて自分から進んで勉強させる。そういう仕組みを作るのが学校なのではないかという話を頂きまして、まさしく生きる力というのが本当に具体的に分かるような講演を聞いてきました。それらも含めまして、陸前高田の子供たちの教育に努めてまいりたいと思いますので、本日この総合教育会議がその１つ大綱づくりとなりますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○管理課長補佐

次に３の協議に移らせていただきます。

協議の方の進行につきましては、戸羽市長にお願いいたします。

○市長

それでは早速協議に入らせていただきます。

先ほどから出ておりますが本日の協議の議題でありますけれども、陸前高田市教育大綱の見直しについてということを議題にさせていただきます。では事務局から説明をお願いします。

○管理課長補佐

それでは事務局から、陸前高田市教育大綱の見直しにつきましてご説明をさせていただきます。

まず、資料Ｎｏ．１「陸前高田市教育大綱の見直しについて」の資料をご覧願います。前回の会議でお配りした資料と同じものでございますので、細かい説明は省略をさせていただきますが、大綱の定義、根拠法令、策定の趣旨、現行の大綱について、それから５の大綱の見直し方針でございますが、「まちづくり総合計画」と「第９次教育振興基本計画」の策定に伴いまして、現行の大綱を見直し、整合性を図ろうとするものでございます。

次の資料Ｎｏ．２をご覧願います。こちらが、陸前高田市教育大綱の今回の見直し案でございます。内容につきましては前回の会議において案を一旦お示しいたしましてご説明させていただいておりますが、前回の頂いた意見等を踏まえまして、一部修正を加えております。修正内容につきましてご説明をさせていただきますので、次の資料Ｎｏ．３をご覧願います。

教育大綱の今回の見直し案と、それから右側に第９次教育振興基本計画を記載いたしまして、関連を表に表わしたものでございます。大綱の見直し案としましてはこちらにありますとおり６つの基本方針を定めまして、それぞれ右側の教育振興基本計画の各種施策との関連性を示したものでございます。前回の会議でお示しした大綱案からの修正箇所でございますが、大綱の中段の朱書き部分、３の「家庭と地域の教育力の向上」という項目についてでございます。こちらの「教育力」という言葉の使い方につきまして、教育関係者でなければなかなかなじみが薄いということで、市民にもう少し分かりやすい表現で変えた方が良いのではないかというふうなご指摘を頂きました。家庭教育は家庭における基本的な生活習慣ですとか社会ルールなどを保護者が子供に身に付けさせる、というふうな教育といわれておりますけれども、なかなかそちらをストレートに捉えていただくことが難しいのではということで、「家庭の教育力」といった場合に、いわゆる学力の向上に関しての取組といったふうに限定して受けとられてしまうということでの心配のご意見でございましたので、そのご意見を踏まえまして表現を修正いたしました。「学校、家庭、地域が一体となった教育の推進」というふうに修正をいたしまして、学校だけではなくて家庭や地域が相互に連携してつながりの中で子供の成長を見守り、あるいは支えていけるような教育というものを目標として掲げたものでございます。取組の方針としましては、こちらに４点掲げてございます。こちらの内容に修正はございません。

次の資料Ｎｏ．４につきましては現行の大綱と今回の見直し案とを比較対照できるように表に整理したものでございますので、こちらはお目通しをお願いしたいと思います。

以上で簡単ではございますが教育大綱の見直しについての説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

ただ今、資料について説明がありましたが、皆様から何かご意見、ご質問がありましたらお願いします。

○佐々木委員

先ほどの説明の中の「たくましく生き抜く力」のキャリア教育のところで、以前は進路の教育で小中学校で持ち上がっていくノートを使っていました。自分の特色などを書かせたりし、持ち上がっていって最終的には将来の夢を見つけていくといった内容です。でも、最近では震災ちょっと前あたりから、中学校では特に職業体験することがキャリア教育というウエイトが大きくなってきたように思います。言葉は悪いのですが「自立」につながる積み重ねの部分が少しおろそかになっているように感じます。一番大切なのは、確かに体験も大切ですが、自分を見直して小学校から積み重ねていって中学校で高校を目指す時、高校は普通科もありますが、最終的には職業を見据えた高校選びになるわけです。ほとんどの子は「将来は何？」と聞いても「わかりません」と、決まっているのはごく一部のようです。高校の先生は「小中で希望していた進路の考えから９割変わります。でも、希望を持つ子と持たない子では高校に入学してからの伸び率が違います。変わってもいいので、進路指導いわゆるキャリア教育の中では、きちんと将来を見通した職業を考えさせてほしい。」と言われました。このことのポイントが、どの程度なされているかを把握しておく必要があるんだろうと感じました。キャリア教育で「たくましく生き抜く力」の根本的なところに係るのかなと思います。

○千葉学校教育課長

佐々木委員がおっしゃられたように、キャリア教育イコール職場体験ではないというのはそのとおりでありまして、キャリア教育というのは人としての生き方あり方をどう考えていくかというところが本筋です。来年度から全国的に「キャリアパスポート」というものを子供たちが持つことになります。この「キャリアパスポート」というものは小学校１年生から高校３年生まで持ち上がって、その都度自分がどのように考えて感じて行動していく、各学年４から６枚程度だと思うのですがファイリングしていって高校まで持ち上がるものが来年度から全国的にスタートすることになっております。その予算を来年度予算のファイル代ということで教育委員会としては考えているところです。

○教育長

まさしく、昔のキャリアノートのみたい形で自分を見つめたり、将来の夢を持ったりすることを小学校、中学校、高校とつないでいくということをやるようになると思います。

○佐々木委員

おそらく、先ほど話した体験重視になってきたということで、中学校１年生あたりでも「営業と事務なら自分はどっち？」の問いに、「営業ってどんなことをするのですか。」などと考え、自分は何に向いているのかを考えることにつながる。そういうことを見直すのがキャリア教育のまた一つだと思います。特色とかそういうものが網羅的になされていたものがノートでありました。そうすると来年からは「キャリアパスポート」がその役割を果たすような形になるのですね。

○千葉学校教育課長

あとは中身をどう高めていけるかというところだと思います。

○伊藤委員

改めてこの試案を見させていただいて、１番の「社会でたくましく生き抜いていく力の育成」は本人が主体といった感じがしますけれども、３番の中にある「たくましい子供を育てる家庭教育の支援」というのはどういうイメージをすればいいのか教えていただきたいのと、１番の中の「グローバル人材を育成する教育の推進」ということは、国際社会との交流というイメージでよろしいのですか。

○管理課長補佐

それでは大項目３の今回修正を加えた「たくましい子供を育てる家庭教育の支援」ということでございますが、中身としましては家庭教育の支援ということで、保護者の方々への様々な学習機会の提供ですとか、あるいは地域の方々とのつながりが希薄といわれていますので、そういう機会を作りまして、悩んでいる保護者の方々が孤立しないような環境や取組を進めたいということでございます。

○千葉学校教育課長

１番の中の「グローバル人材を育成する教育の推進」は、英語もですし、やはりコンピューターであったりとか、そういったところがあるのかなと思っています。括弧として主体性とか人とつながる力の育成というのがあるのですが、この人とつながる力というのが陸前高田だけでなくて、全国的に必要な力ということで言われているところです。頑張り抜く力とかやり抜く力とか、テストでは測れないようなそういった力って大事ということが、今すごく注目されている部分になりますので、そういったところも含めて机の上の勉強だけじゃなくて、いろいろなところとつながるといったところが含まっているのかなと私は認識しています。

○市長

あえて「グローバル」という言葉を使った意味というのはなんでしょう。

○管理課長補佐

主旨としましては、教育の課題的な部分として、今英語を使った外国語教育の関係を進めているという部分もありまして、前回の振興計画にも国際化という部分があったかもしれませんが現代に合わせて「グローバル化」というふうな言葉を入れつつ、内容としましては英語教育の推進ですとか、あるいは世界に向かっての人材の育成というふうなところを少し強めに出してみたというふうなかっこうになっております。

○伊藤委員

せっかく、グローバル人材を育てるための主体性と人とつながる力の育成というところの、千葉学校教育課長のお答えの「英語を使える」「コンピューターを使える」ということではなく、本物の人と人が関わりを持つ機会があればここがしっくりくるのかなと感じました。

３番の「たくましい子供を育てる家庭教育の支援」のところなんですけど、地域との関わりや家庭が地域から孤立しないためとのご返答でしたけれども、先日米崎小学校に学校公開でおじゃましたときに、やはり、高田もそうなんですけれども米崎も、新しく住宅地ができ新しい部落的なものと古くからいる住民の方たちとの、うまく地域の文化の交流ですとか地域の交流が図られなくてですね、震災前でしたら子供会とかがそういうのを地域に育む活動の一環としてすごくあったんですけど、いま、隔たりがあるように感じるというのは、私も高田町に住んでいますがやはり新しくできたところと昔からのところとの関わりが震災９年目ともなると難しいという話を伺ったので、「たくましい子どもを育てる」といったところで、子供会が復活してほしいというまでは言いませんが、もう一度そういう関わりがあるといいのかなと思います。お祭りが一番いいと思っていたのですが、なかなかその差が出てきてしまっているように感じました。

最後に、せっかく陸前高田市はノーマライゼーションという言葉のいらないまちを目指していて、とてもそれは全国的にも世界的にも注目されていると思うので、新しい見直し案の中にはどちらにそれが入っているのかをお聞きしたいと思いました。

○管理課長補佐

教育振興計画の細かい取組内容の方では芸術文化の分野の方ではそういった障がい者の方の文化祭の出品、出展を支援していくことも掲げていますし、こちらの大綱の方ではそこまで細かくは関わっていないのですが、あとはスポーツの推進の方で様々な障がい者スポーツの振興ですとか、あるいは、いわゆるスポーツだけでなく近年流行していますようなｅスポーツとか様々な形のスポーツとかも挑戦といいますか、誘致といいますか進めていくことでは盛り込んでおります。

○伊藤委員

そのことつきまして、そういったイベントごとではなく小さいうちから分け隔てなく一緒に地域で育っていくという環境が「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」の教育の一環だと思うので、聞いた話によりますと海外の子供たちは、そういった子どもたちのバスの乗り降りとか、ドアの開け閉めなどをすることがものすごく格好いいことだということで、大人よりも先にパーッと行動でやっておられるというのをお聞きしたことがあるので、陸前高田市の子供たちは思いやりを持つ、それこそ心豊かな育む教育の推進としてそれを盛り込んでいただけると陸前高田らしさがでるのかなと感じました。

○教育長

今回のこの大綱の中に具体的には混ぜることはできませんけれども、またそれも考慮しながら別の機会に考えていくことにしてはいかがかなと思います。

○教育次長

教育大綱は項目を並べて作るものなので、その中の施策に関しては今回ではなく、教育振興

基本計画がありますのでその中で細かい部分はやらせていただくという考え方にもなるのかなと思っています。

○市長

この大綱の大項目はリンクしているんですよね。

○管理課長補佐

基本的にはリンクしております。

○教育次長

見直し案の項目は、教育振興基本計画の基本施策のところの項目とリンクしています。イコールになっております。表現として、そのとおりでないのが６の生涯スポーツの中の下から２番目の「市民のスポーツの機会の創出」というそのままのストレートな表現は基本施策の中にはないですが、その他については全く同じ字句で入っているという作り方になっています。

○市長

２番の「一人ひとりを大切にした学校教育の推進」という項目について、伊藤委員からお話があったんですけれど、今言われて改めて見たときに、一体感がないと感じる。例えば、「学校不適応児童の」といえば、その子たちに焦点が当たってはいるけれども、これってある意味、隔離とは言わないけれども、「こっちのグループは別の部屋で指導します」というようなイメージの強い表現も多いと感じます。「配慮を要する」とか、確かに配慮を要するとは思うのですが、基本的には仲間として同じ中で育っていくことが大事で、まさにノーマライゼーションとはそういう話で、「この子は、ちょっとほかの子とこの部分が違うから、別の部屋で。」というのは今までも当然やってきている話だし、それをここでうたわなくても教育委員会や市がやらないという話ではないと思うんです。やることは同じだと思うのですが、表現として「配慮を要する児童生徒への支援の充実」など大綱の中で特出しすることに違和感を感じる。

○伊藤委員

「多様で個性ある文化の創造」の「多様」の使い方が私は人に向けての感じがします。人種的なイメージがします。ＬＧＢＴなどの感じがするのですが。

○教育長

そういう深い意味ではなく、浅い意味での多様です。

○管理課長補佐

誰でも、どこでも、広い意味での多様です。

○伊藤委員

最近では、そういったことを「多様」と表現することは多いように感じます。

○教育長
それも、捉え方としてはあるかもしれませんが。

○遠藤委員
市長は、ここに書くこと自体が隔離しているように感じるということなんですよね。
○市長
２番のところは細分化された施策の中で書くのではあれば分かるのだが、大きい項目に書くのであれば、もっと総体的なそれこそＳＤＧｓのような「一人の子供も取り残さない」とか、全部の分野に入って行って、その中の施策として「配慮を必要とする子供もいますよね。その子たちは手厚くやってあげましょう。」というのは施策としてはあると思うのですが、大項目のすぐ下に入ってくるというと。

○佐々木委員
極端な話、大項目の補佐は全部いらないのではないでしょうか。右側の基本施策とほぼ同じですよ。大項目は大文字だけで良いのではないでしょうか。

○教育次長
大きく捉えれば、方針を定めるというのが大綱なので、いま佐々木委員がおっしゃった大項目の部分だけ表記するのも一つの方法だと思います。

○市長
大項目のみの表記で、内容を聞かれたときに「このような中身ですよ。」と答えられれば、基本的にはこの大項目が大綱なのではないでしょうか。
大綱は、他市もこのつくりなのですか。

○管理課長補佐
他市の大綱のつくりは様々ですが、多いのは教育振興計画の概要版のような形が多いです。今回お示ししたような、教育目標とか市民憲章みたいな形のところはあまりないです。大きい項目のみ書いてあるところはあまりないですが、特に決まりはないです。

○教育次長
決め方ですので市長がおっしゃったように、中身について聞かれたときに、結局最後は振興基本計画の方にもつながっていく部分ですので、そちらの方でも説明はできるのかと思います。

○教育長
あくまで方針というのはこの大項目というふうな形でとらえたい。あとは施策なんだという

形で、分けて考えたい。

○市長

２番も大項目だけみれば正にノーマライゼーションだと思うんですよね。可能なのであれば先ほど佐々木委員が話したような形も一つの案なのかなと思います。

いかがでしょうか。みなさん。それぞれご意見はあると思いますが。

○木下委員

賛成です。いっぱい文章があると、大綱を聞かれたときに全部は出てこないですが、６つの大きい項目であれば分かりやすいです。細かいところまで書いてあると、書いてある内容だけに固執してしまうけれども、無ければ書いている以外のやるべきことも皆が考えてやるようになるのではないかと思います。あんまり細かくしてしまうと誰も分からない場合もあるので、大項目の方がいいのではないかと思い、賛成という意見です。

○市長

大綱ですから、これ以上でもこれ以下でもないですよね。大方針ですよね。その下に何がぶら下がっているかといっても、実際これを目指すべくいろんな施策があって、第９次基本計画があるということですよね。

○木下委員

前回も話したんですが、どこにあるのかずーっと見て迷っているのが「一人ひとりを大切にした学校教育」ってすごく良い事なんですね。ただ、学校でいつもずーっと迷ったのは、集団と個とどちらも大切なんですけど、矛盾する部分があるんですよね。一人ひとりを大切にすると集団としては難しくなる。矛盾するんですよ。どちらかというと、ちょっと前までは集団をとにかく大切にして、集団のため集団のためといって個を犠牲にした部分がある。今それが、個が大切だとやっているが、これはどこまでいけるのか。やはり、集団というものがあって、そこになければ集団の中に生きる個を大切にしなければならない、どんな個でも集団で生かせるんだというふうにならないと、「俺は反対だ」「俺は皆とやりたくない」「おれは個だ」というのが出てきたときにどう対応できるのか難しいと思う。なので、どこかに「集団」というのが欲しいと考えるけれども。一人ひとりっていうのを追及していっていいのかなという疑問があるんですけれども。

○市長

本当に集団はすごく大事で、その中でルールとか人に譲ることだとかということを、勉強と違う教育をいっぱい受けるじゃないですか。本来は集団教育の中でのいろんなことのはずなんですよね学校って。その中で自分の意見も他人の意見も、自分の意見と食い違うからといってもそれはそれで認めなくてはいけないというのを学ぶのもやっぱり集団だから。

○教育長

発達段階にもよると思うんですけれども、小学校の役割はやっぱり集団だと思います。個から人が集まった段階から集団として生きる力を身につけるというのは学校の役割だと思うし、あとはやっぱり、一人ひとりを大事にするということは集団にも関わっていくんだと思うんですよね。大前提にある、分け隔てのない子どもを育てるということが私は一番だと思うんです。それとあと、集団というのは、そこはできてから色々な人との関わりを持つという集団の育成と、高学年以上になればリーダーを育成するとか、そういう段階に応じた教育になってくるのかなと考えるのですけれども。もちろん、どちらが大事というのではなく両方大事ということで進めなければいけないのかなと考えたんですが。

○市長

大綱の話なので、基本、学校教育というときは必ず集団の中でという大前提でみんなものを考えていて、集団の中なんだけどいろんな個がいつの時代もいるという捉え方をすればこれでいいのだと思うし、そこの考え方なんではないかと思います。学校って一定の規模があってクラスがあって、いわゆる「１つの集団の中でたくましく生きる力を身につけましょう。」その中でも「一人ひとり個性というものがあって、尊重していきましょう。」と、ここに書いてなくても、文字として表さなくても大前提として集団の中でということがここで共有できれば良いのではないかという気がするんですが。どうでしょう。

○木下委員

そうですね。学校教育は日本では集団ですからね。

○佐々木委員

ただ、生徒指導的なところでは集団と個人があると思うんですよね。集団で学級経営の部分できちんと進めていく中で、例えば不登校的なところだと、対家庭との関係で個人となりますよね。そうするとやはり、個人を大切にというところがあるし、学校はそもそも集団なので集団の中の個人ということになる。なので、一人ひとりを大切にというのもそのとおりだし、集団の中の一人ひとりを大切にという感じがするんですけれども。ケースバイケースで個であったり集団であったりが学級の中や学校の中で常に出てくるので。

○市長

そこを文字にするかしないかだと思うんですが、例えば「集団の中で」と頭のところで言ってからこれを言えばこれに関しては非常に分かりやすいと思うんですが、でも、集団というものを文字として出した時に、なんでこんなに集団を意識しているのかとみられると思うんですよ。私が先ほど言ったように、「一人ひとりを大切にした学校教育の推進」も文字はこうだけれども、あくまでこれは集団の中でという意味の「一人ひとり」だし、集団の中で「社会でたくましく生き抜いていく力の育成」なんですということを、まず教育委員の皆さんで共有できれば良いのではないでしょうか。

○教育次長

学校社会がまず、集団が基本なんですというような捉え方をしていただいて、このような書き方という感じではいかがでしょうか。

○市長

では、諮らせていただきたいと思います。この間、皆さんからいろんなご意見を頂きました。その中で、教育大綱については大項目の１番から６番までを表記させていただいて、もう一つは集団教育という中でのそれぞれの項目であろうということがありますので、文字にはしませんけれどもそれを前提として、それぞれ６項目を並べさせていただくという意見が大半であったかなと捉えましたので、その方向でみなさんよろしいでしょうか。

そういうことで、そういう形で大綱をまとめさせていただくということにさせていただきます。

それでは、以上で予定をされておりました協議は終了いたしました。

○管理課長補佐

ありがとうございます。

次に、次第の４その他ですが、事務局では特に用意してございません。委員の皆様から何かございましたらお願いします。

（「なし」の声あり）

以上を持ちまして、令和元年度第２回陸前高田市総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。